

# 緊急消防援助隊情報

## 2019年度緊急消防援助隊中部ブロック 合同訓練の実施結果について

広域応援室・福井県実行委員会

2019年度緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練は、福井県奥越地方の地域特性を反映した災害を想定し、「統合機動部隊による迅速な災害対応」と、「関係機関と連携した実践的訓練」をコンセプトに、要請要綱に基づく要請・出動手順を検証し、活動技術の向上、警察・自衛隊・DMA T等関係機関を含めた連携活動能力の向上及び受援体制の総合的な向上を図ることを目的とし、福井県奥越地方を中心に次のとおり実施しました。

### 1. 実施日

令和元年11月1日（金）・2日（土）

### 2. 実施場所

福井市、大野市、勝山市

### 3. 実施内容

#### (1) 訓練想定

福井県奥越地方で記録的な長時間の降雨に加え、その地方を震源とする震度5強の地震が発生し、その後、同地方で最大震度6強を観測した。

この地震により、奥越地方では、建物倒壊、火災、土砂災害等による人的・物的ともに甚大な被害が発生した。

福井県内消防機関は消防相互応援協定に基づき、県内応援隊を出動させた。また、福井県知事は、被害が甚大であることから、福井県内の消防力のみでは対応が困難と判断し、緊急消防援助隊の応援要請を行った。

#### (2) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

想定地震発生後に、福井県庁に消防応援活動調整本部を、大野市・勝山市消防本部に指揮本部及び指揮支援本部を、福井県防災航空事務所に航空指揮本部及び航空指揮支援本部をそれぞれ設置し、応援要請等に係る情報伝達、受援調整及び緊急消防援助隊の部隊活動調整等について、図上訓練を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 消防応援活動調整本部内において、県災害対策本部と連絡調整に当たる職員が不足したため、災害の全体像や消防力の調整を要する被害情報の十分な共有を図ることが難しかった。
- 指揮本部と指揮支援本部において、災害情報や部隊調整情報の十分な共有を図るための方策を検討する必要がある。



消防応援活動調整本部設置運営訓練（1日）福井県庁

#### (3) 参集訓練及び受援対応訓練

ヘリコプターによる指揮支援部隊長の調整本部参集を実施するとともに、福井県内4箇所を進出拠点とし、管轄消防本部による受援対応訓練を実施した。また、統合機動部隊は各県大隊の先遣隊として迅速出動し、部隊運用訓練を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 統合機動部隊及び各県大隊に対する受援体制の検証はできたが、多数の部隊が集中した際の進出拠点のスペースの確保及び後続隊への情報提供の必要性を感じた。



参集・受入訓練（1日）消防学校会場



#### (4) 部隊運用訓練

指揮支援部隊長の部隊統制の下、地震及び記録的な降雨による被害を想定した各種訓練を各関係機関と連携して実施した。

訓練1日目には、建設中の中部縦貫自動車道（トンネル）を活用して、実災害を想定した多重衝突事故救出訓練を実施したほか、救助隊保有のドローンで被害状況を撮影し、夜の活動ミーティングにおいて情報共有を実施した。

訓練2日目には、航空機やバイク隊（消防団員）による偵察・情報収集訓練をはじめ、関係機関と連携した訓練を実施したほか、大型水陸両用車による土砂・風水害救出訓練等19項目の訓練を2市で実施した。

両日ともに、指揮支援隊の活動統制の下、訓練項目ごとに現地合同指揮所を設置し、県内応援隊、複数の県大隊、航空隊及び関係機関が連携して情報共有を図る統括的な指揮活動を実施した。

また、消防庁無償使用車両の災害対応力について検証するとともに、福井県防災ヘリのヘリテレ、ヘリサット及びドローンによる映像送受信を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 今回、実災害を想定し、統合機動部隊及び各県大隊の到着時間を割り振ったものの、県隊によって活動時間の長短があり、やむを得ず訓練を終了することがあり、訓練時間の設定の工夫が必要であった。
- 各関係機関との活動連携について、ブラインド型訓練としたことで相互の活動方針等が十分に共有できず一部混乱が生じた。その反面、指揮支援隊及び県隊長の活動統制の下、県大隊間で情報共有を実施し、連携活動が実施された。



土砂・風水害救出訓練（2日）真名川憩いの島会場

#### (5) 後方支援活動訓練

奥越ふれあい公園・勝山市体育館ジオアリーナ及び大野市役所城下町南広場において、支援車I型及び拠点機能形成車等を活用したほか、汚染・感染予防を考慮したデコンタミネーションを実施した。また、野営訓練中、地震発生に伴うシェイクアウト訓練及び隊員・車両等の被害状況確認訓練を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 防災拠点としている施設を訓練会場として使用し、広い会場内での部隊配置等に対する検証を実施することができた。
- 訓練実施直前に宿営会場を変更したが、各県隊、柔軟な対応がとれた。



後方支援活動訓練（1日）奥越ふれあい公園

#### 4. おわりに

今回の訓練は、統合機動部隊の迅速な訓練会場への参集及び訓練実施、被災県消防本部指揮隊による現地合同指揮所の運営調整、実際の施設・地形を活用した訓練等、より実践的な訓練となるよう計画しました。

福井県における緊急消防援助隊の受援及び部隊運用、関係機関との連携活動等における課題等が明らかとなり、実災害への対応に向けた大変有意義な訓練であったと考えます。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努めてまいります。

最後に、本訓練開催に際しまして、多大な御協力を賜りました中部ブロック各県、他地域ブロック参加の滋賀県の参加各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

#### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室  
TEL: 03-5253-7527（直通）



# 令和元年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練の実施結果について

## 広域応援室・宮崎県実行委員会

令和元年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練は、宮崎県内陸部の地域特性を反映した災害を想定し、「受援体制の強化」と、「土砂災害、噴火災害等の複合災害に対する実践的訓練」をコンセプトに、要請要綱に基づく要請・出動手順を検証し、活動技術の向上、警察・自衛隊・DMAT等関係機関を含めた連携活動能力の向上及び応援体制の向上を図ることを目的とし、宮崎県高原町を主会場に次のとおり実施しました。※宮崎県総合防災訓練及び九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練と同開催

### 1. 実施日

令和元年11月9日(土)・10日(日)

### 2. 実施場所

高原町、宮崎市、都城市

### 3. 実施内容

#### (1) 訓練想定

令和元年11月9日9時00分、宮崎県南部山沿いを震源とする地震が発生し、宮崎県内陸部(高原町)で最大震度6強を観測、この地震に伴い、霧島山(新燃岳)では爆発的噴火が観測された。

この地震、土石流及び山崩落により、高原町及び都城市を中心とする宮崎県南部山沿い地域では、建物倒壊、火災、土砂災害等による人的・物的ともに甚大な被害が発生した。

宮崎県内消防機関は消防相互応援協定に基づき、県内応援隊を出動させた。また、宮崎県知事は、被害が甚大であることから、宮崎県内の消防力のみでは対応が困難と判断し、緊急消防援助隊の応援要請を行った。

#### (2) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

想定地震発生後に、宮崎県庁に消防応援活動調整本部を、西諸広域行政事務組合消防本部及び都城市消防局に指揮本部と指揮支援本部を設置し、応援要請等に係る情報伝達、受援調整及び緊急消防援助隊の部隊活動調整等について、ロールプレイング方式により図上訓練を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 消防応援活動調整本部内において、災害初期の被災地消防本部からの情報収集連絡体制の強化を図っていく必要がある。

- 宮崎県災害対策本部と消防応援活動調整本部との情報共有の方法について検証していく必要がある。



消防応援活動調整本部設置運営訓練(9日)宮崎県庁

#### (3) 参集訓練及び受援対応訓練

ヘリコプターによる指揮支援部隊長の調整本部参集を実施するとともに、宮崎県内4箇所を進出拠点とし、管轄消防本部による受援対応訓練を実施した。また、統合機動部隊は各県大隊の先遣隊として迅速出動し、サテライト会場にて部隊運用訓練を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 訓練では時間を指定しての集結であったが、多数の参集部隊が集中した際の職員の対応について検討が必要である。



座屈中高層建物救出訓練(9日・夜間訓練)メイン会場



#### (4) 部隊運用訓練

指揮支援部長の部隊統制の下、地震被害を想定した各種訓練を各関係機関と連携して実施した。

訓練1日目には、各防災航空隊による偵察・情報収集訓練及び救助訓練を実施したほか、統合機動部隊がサテライト会場において、倒壊建物や橋梁崩落現場での救助訓練を実施、夜間訓練として民間のドローン業者による情報収集訓練、有毒ガスが発生し活動制限がある中での情報収集訓練及び救助訓練を実施した。

訓練2日目には、航空機や県警バイク隊による偵察・情報収集訓練をはじめ、自然地形を活用し、橋梁崩落事故からの救出訓練及び土石流埋没家屋（車両）救出訓練、地元消防団と連携した中継消火訓練を含む火災対応訓練等11項目の訓練を実施した。

両日ともに、指揮支援隊の活動統制の下、訓練項目ごとに現地指揮所を設置し、県内応援隊、複数の県大隊、航空隊及び関係機関が連携して情報共有を図る統括的な指揮活動を実施した。

また、消防庁無償使用車両の災害対応力について検証するとともに、各県防災ヘリのヘリテレ、国交省ヘリのヘリサット、無線中継車及びドローンによる映像送受信を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 複数の県大隊が連携活動する訓練とし、被災県指揮隊が合同指揮所内の運営調整を進めるとともに指揮支援本部等で情報統制を行ったことで、円滑な情報共有を図ることができた。
- 各関係機関との連携を図ることができたが、現地合同調整所の設置や、対策本部、指揮本部内での調整等継続して訓練を実施する必要がある。



橋梁崩落・土石流埋没救出訓練（10日）メイン会場

#### (5) 後方支援活動訓練

高原町総合運動公園において、支援車I型及び拠点機能形成車等を活用した訓練を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 受援計画で宿営可能場所としている施設を訓練会場として使用し、広い会場内での部隊配置等に対する検証を実施することができた。



後方支援活動訓練（9日）高原町総合運動公園

#### 4. おわりに

今回の訓練は、受援体制の強化を図るため、県と被災地消防本部とがリンクした図上訓練、自然地形を活用した様々な救助訓練等、より実践的な訓練となるよう計画しました。

宮崎県における緊急消防援助隊の受援及び部隊運用、関係機関との連携活動等における課題等が明らかとなり、実災害への対応に向けた大変有意義な訓練となりました。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努め、県内10消防本部で「オール宮崎」を合言葉に一致団結して取り組んでまいります。

最後に、本訓練開催に際しまして、多大な御協力を賜りました九州ブロック各県、参加各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

#### 問合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室  
TEL: 03-5253-7527 (直通)